

III. 調查結果

1. 環境の状況についての実感(問1)

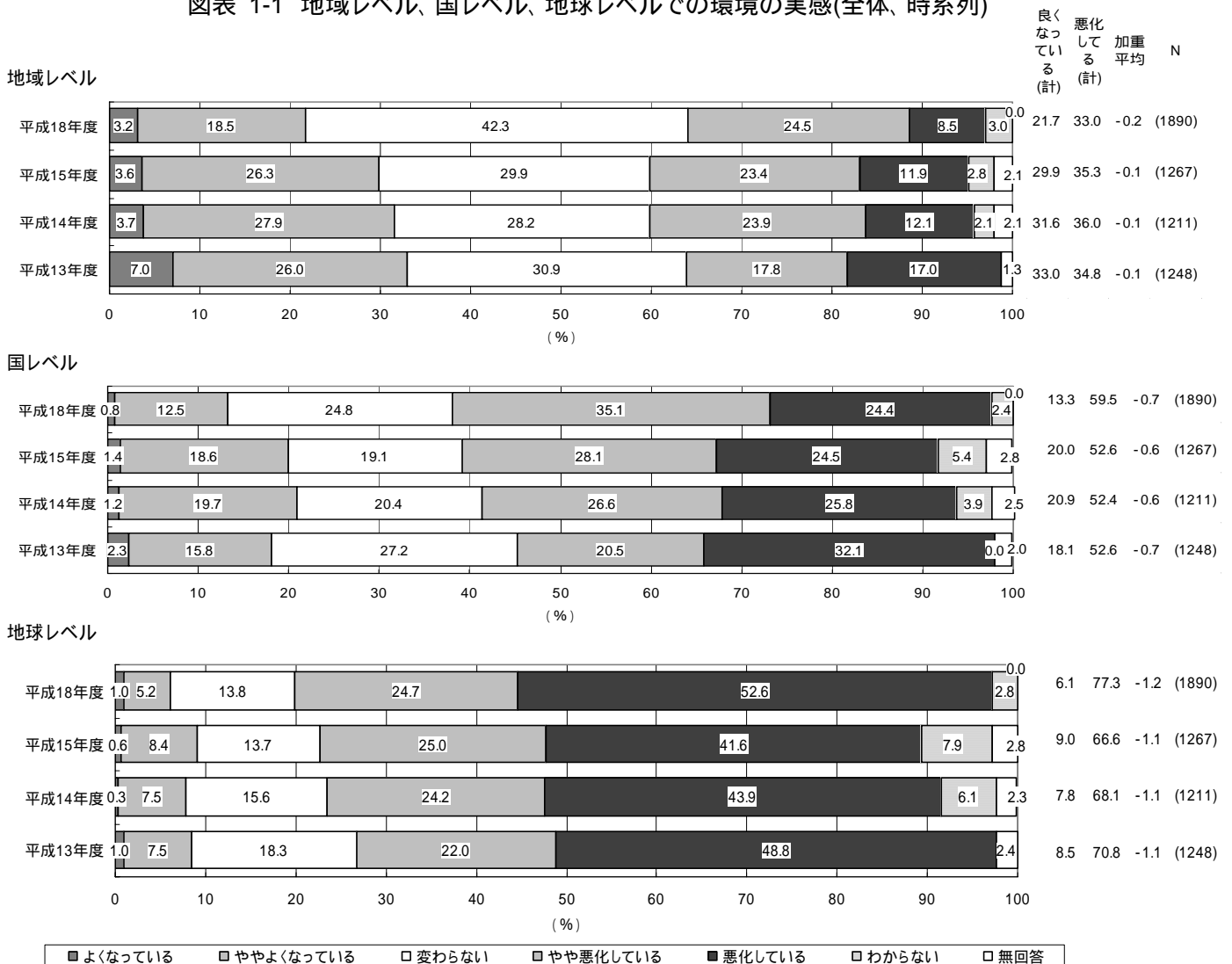
1-1 地域レベル、国レベル、地球レベルの環境の実感(比較)

環境悪化を実感する比率は、国レベル、地球レベルで増加し、特に地球レベルでの環境が「悪化している」「やや悪化している」とみる人の比率は77%と高い。一方、地域レベルの環境悪化を実感する比率は減り、「変わらない」とする比率が増している。

近年の環境の状況についての実感を地域、国、地球の3レベルに分けて尋ねたところ、良くなっている(「良くなっている」「やや良くなっている」の合計)と実感する人の比率は、地域レベルで22%、国レベルで13%、地球レベルで6%となっている。前回調査(平成15年度)と比較して、3レベルで良くなっていると実感する比較が低下している。

一方、悪化している(「悪化している」「やや悪化している」の合計)と実感する人の比率は、地域レベルは33%にとどまっているが、国レベルは60%、地球レベルで77%と過半数を超え、国や地球レベルの環境悪化を実感する比率が高い。前回、前々回調査と比較すると、国レベル、地球レベルで悪くなっていると実感する比率が増加している。

図表 1-1 地域レベル、国レベル、地球レベルでの環境の実感(全体、時系列)



注)この項の加重平均は、「よくなっている」に2点、「ややよくなっている」に1点、「変わらない」に0点、「やや悪化している」に-1点、「悪化している」に-2点を与えて算出した。

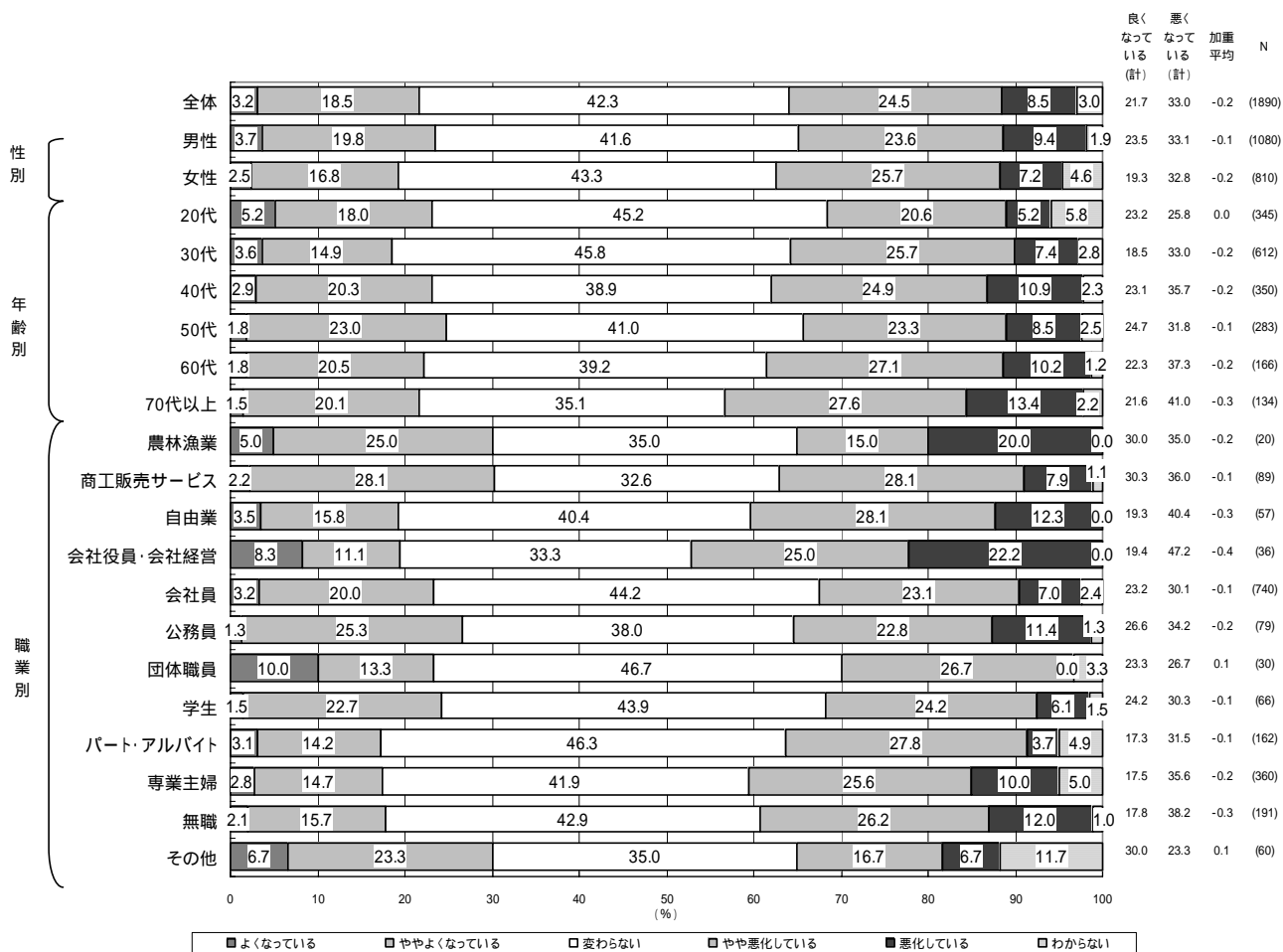
1-2 地域レベルの環境の実感

地域レベルでの環境悪化を実感する比率は全体の 33%を占める。性別では悪化しているとの実感に差は見られないものの、むしろ良くなっていると実感する比率は女性より男性が高くなっている。年齢別では年齢層が上がるほど、また職業別では会社役員・会社経営、自由業で環境悪化を実感する比率が高い。

地域レベルでの環境について、良くなっていると実感する人の比率は、女性よりも男性の方が高い。年齢別では、良くなっていると実感する人の比率は、30代で 19%となっているがその他の年代は、20%以上となっている。全ての年代において、悪化していると感じる人の比率が、良くなっていると実感する人の比率を上回る。特に 70代以上では、悪くなっていると実感している人は 41%と全体と比べて高い。

職業別では、良くなっていると実感する人の比率は、農林漁業(30%)、商工販売(30%)の比率が高くなっている。全ての職業において悪化していると感じる人の比率が、良くなっていると実感する人の比率を上回る。その中でも、会社役員・会社経営(47%)、自由業(40%)の比率が高くなっている。

図表 1-2 地域レベルでの環境の実感(性別、年齢別、職業別)

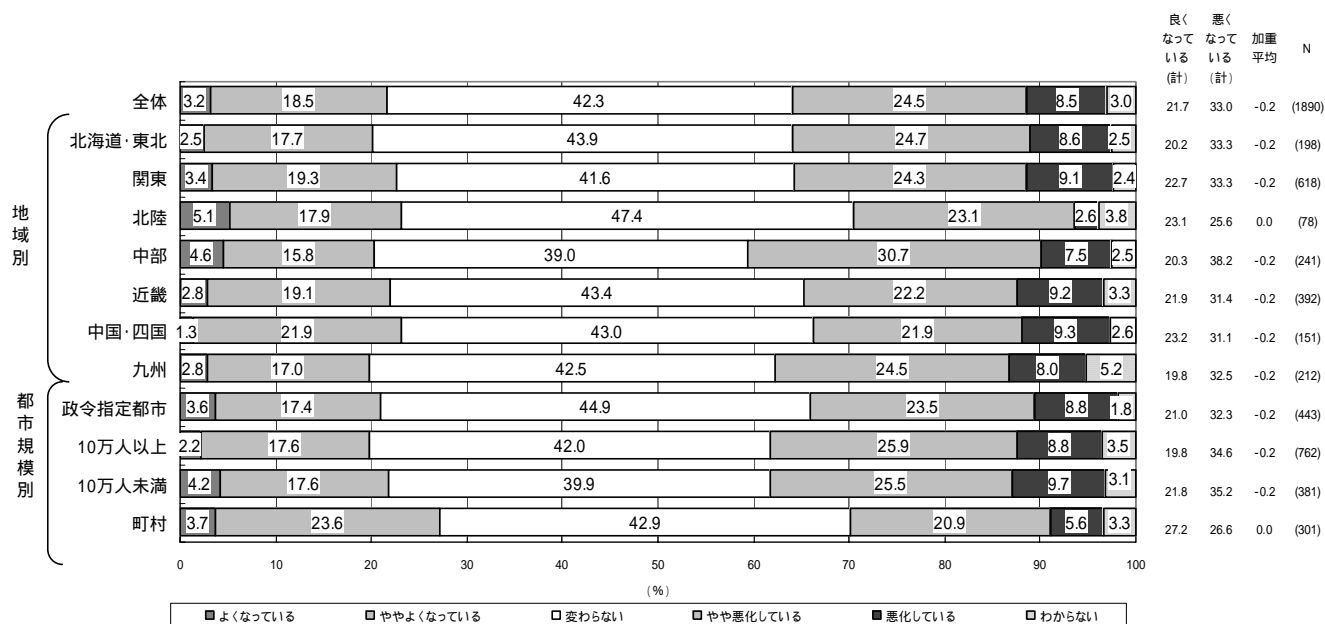


注)この項の加重平均は、「よくなっている」に 2 点、「ややよくなっている」に 1 点、「変わらない」に 0 点、「やや悪化している」に - 1 点、「悪化している」に - 2 点を与えて算出した。

地域別にみると、良くなっていると実感する人の比率は、北海道・東北、中部、九州で低く、関東、北陸、中国・四国で高い。

都市規模別では、良くなっていると実感する人の比率は町村で高く、10万人以上の都市で低い。悪くなっていると実感する人の比率は、政令指定都市と町村以外の都市で高い。

図表 1-3 地域レベルでの環境の実感(地域別、都市規模別)



注)この項の加重平均は、「よくなっている」に2点、「ややよくなっている」に1点、「変わらない」に0点、「やや悪化している」に-1点、「悪化している」に-2点を与えて算出した。

1-3 国レベルの環境の実感

国レベルでの環境悪化を実感する比率は全体の 60%を占める。性別では男性よりも女性で高い。年齢別では大きな差は見られず、職業別では会社役員・会社経営、自由業で高く、農林漁業、団体職員で低い。

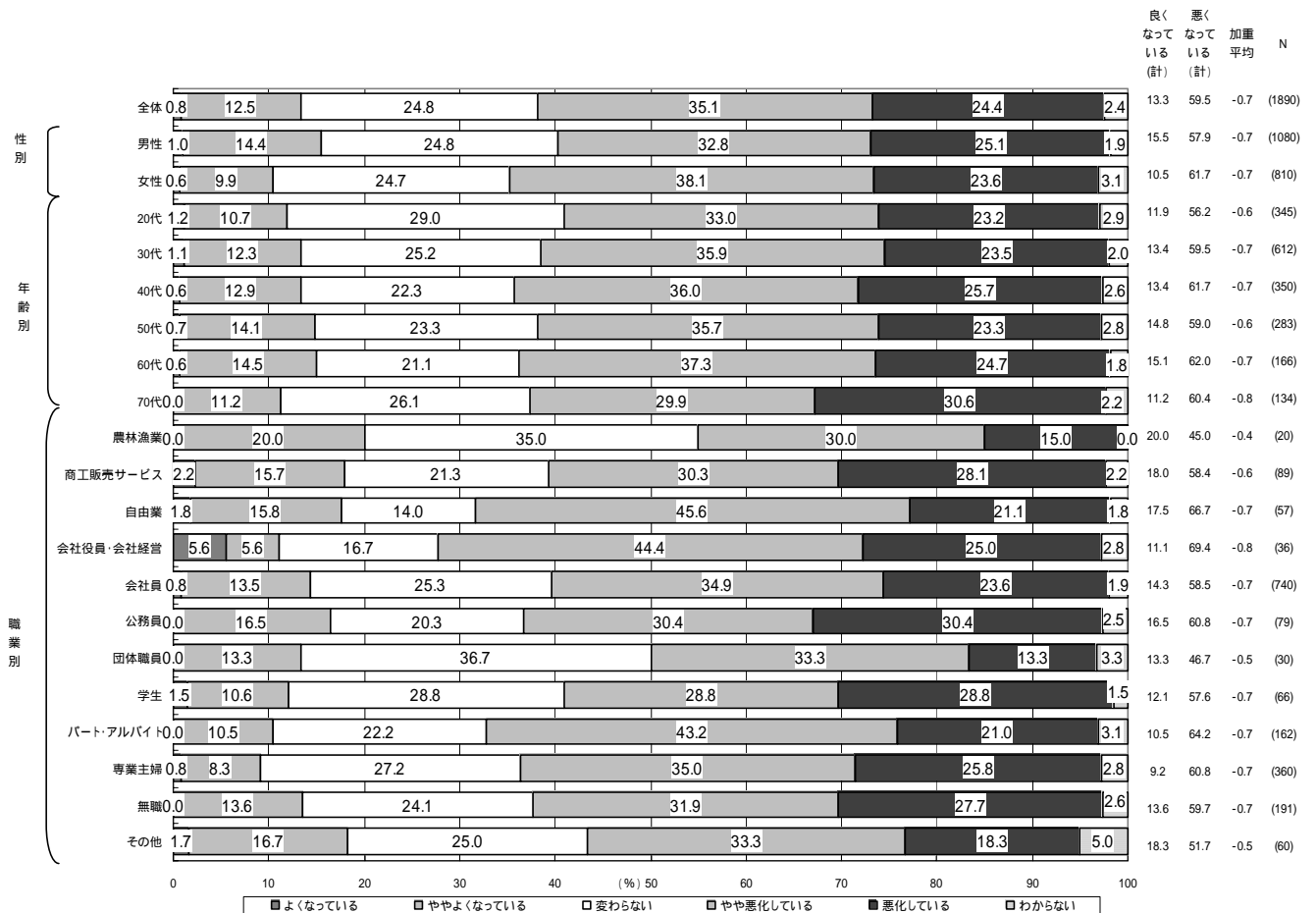
国レベルの環境については、性別、年齢別、職業別のいずれの内訳においても、良くなっていると実感している人よりも、悪化していると実感している人の比率が高い。

性別では、良くなっていると実感している人の比率は、男性の方が女性よりも高い。

年齢別では、良くなっていると実感している人の比率は、60代が最も高く(15%)、70代以上が最も低い(11%)。

職業別では、良くなっていると実感している人の比率は、農林漁業で 20%と高い。悪くなっていると実感している人の比率は、自由業、会社役員・会社経営、公務員、パート・アルバイトで、60~69%と高い。

図表 1-4 国レベルでの環境の実感(性別、年齢別、職業別)

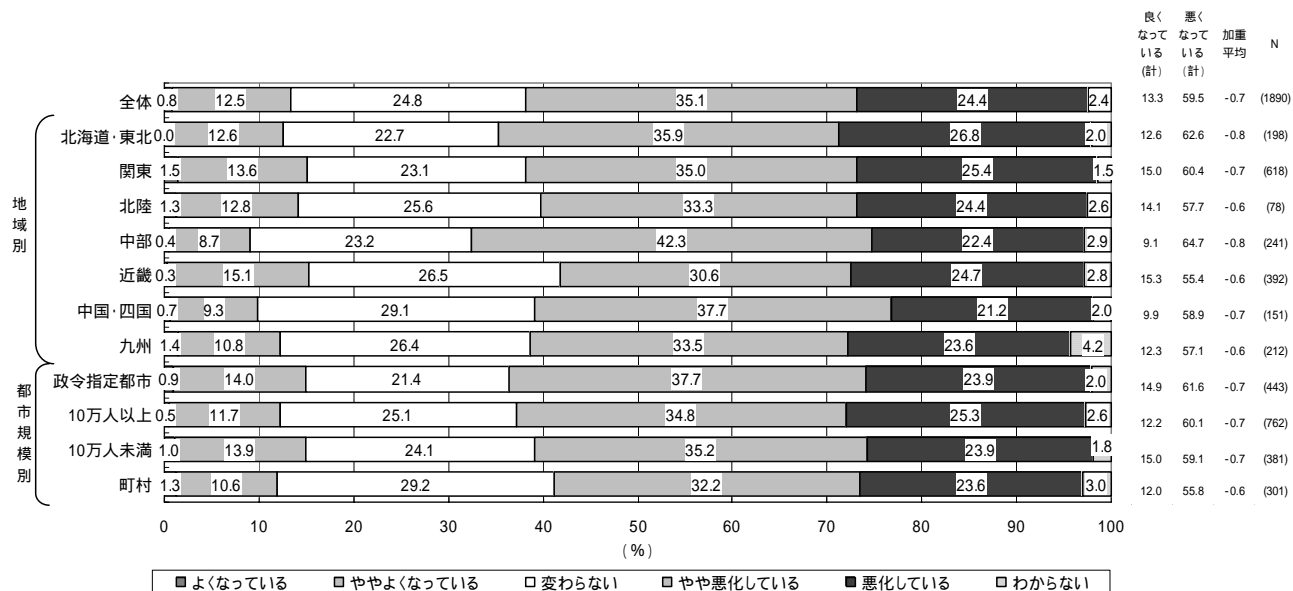


注)この項の加重平均は、「よくなっている」に 2 点、「ややよくなっている」に 1 点、「変わらない」に 0 点、「やや悪化している」に - 1 点、「悪化している」に - 2 点を与えて算出した。

地域別では、良くなっていると実感している人の比率は、関東、北陸、近畿で高く(15%、14%、15%)、悪化していると実感している人の比率は、北海道・東北、中部で高くなっている(63%、65%)。

都市規模別では、人口規模が大きいほど、また政令指定都市ほど、悪化していると実感している人の比率が高い。

図表 1-5 国レベルでの環境の実感(地域別、都市規模別)



注)この項の加重平均は、「よくなっている」に2点、「ややよくなっている」に1点、「変わらない」に0点、「やや悪化している」に-1点、「悪化している」に-2点を与えて算出した。

1-4 地球レベルの環境の実感

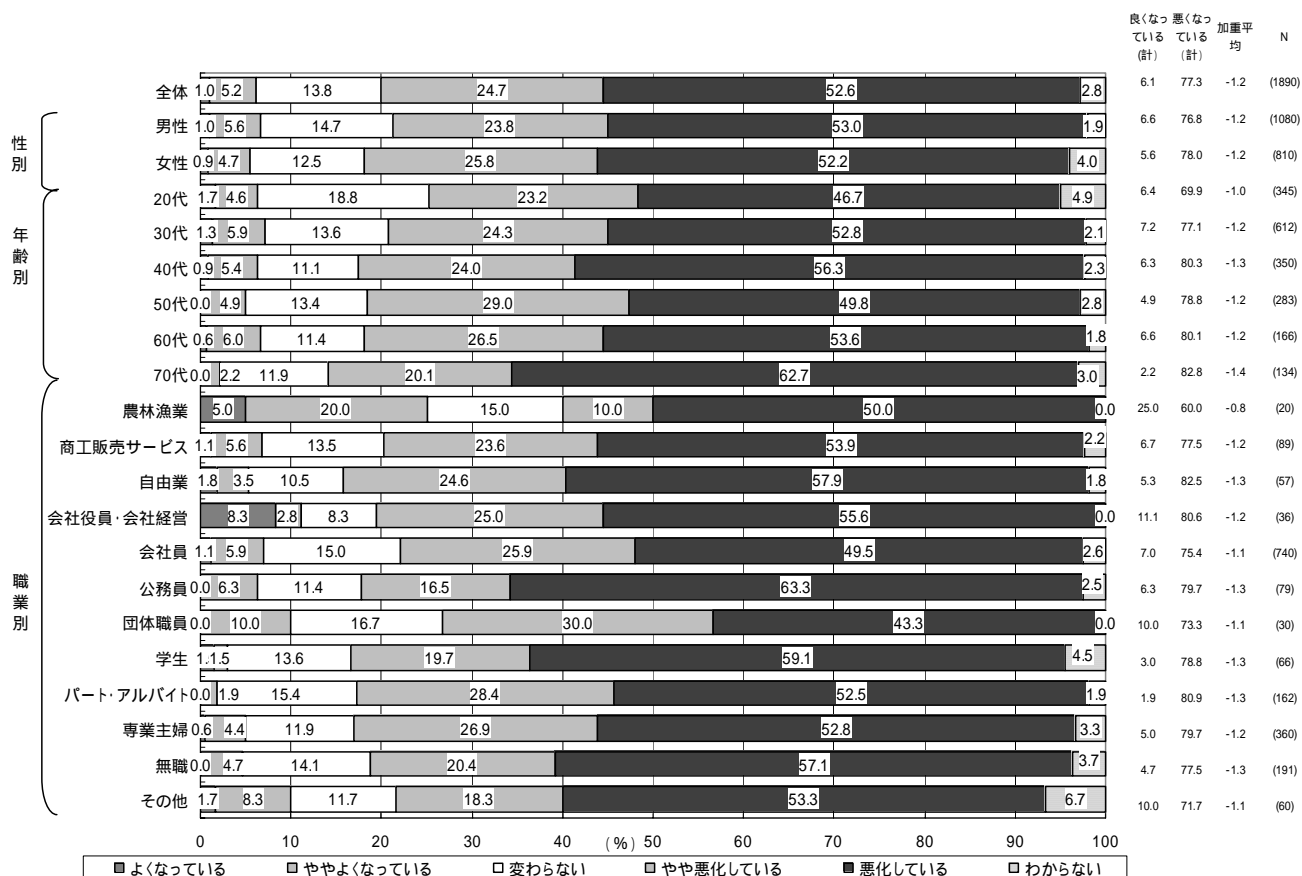
地球レベルでの環境悪化を実感する比率は全体の77%を占める。性別では大きな差は見られず、年齢別では年齢層の上昇に伴い悪化を実感する比率は高くなる。悪化を実感する比率が顕著に高くなる職業はないが、逆に農林漁業と団体職員で悪化を実感する比率は低くなる。

地球レベルの環境については、性別、年齢別、職業別のいずれの内訳についても、悪くなっていると実感する人の比率が、良くなっていると実感する人の比率よりも顕著に高い。

性別による大きな差はないが、年齢別にみると悪くなっていると実感している人の比率は、概して年齢が上がるほど高くなる傾向が見られる。

職業別にみると、良くなっていると実感する人の比率が農林漁業で25%と顕著に高く、次いで会社役員・会社経営、団体職員の比率が高い(11%、10%)。一方で、悪くなっていると実感している人の比率は、自由業で83%とやや高い。

図表 1-6 地球レベルでの環境の実感(性別、年齢別、職業別)

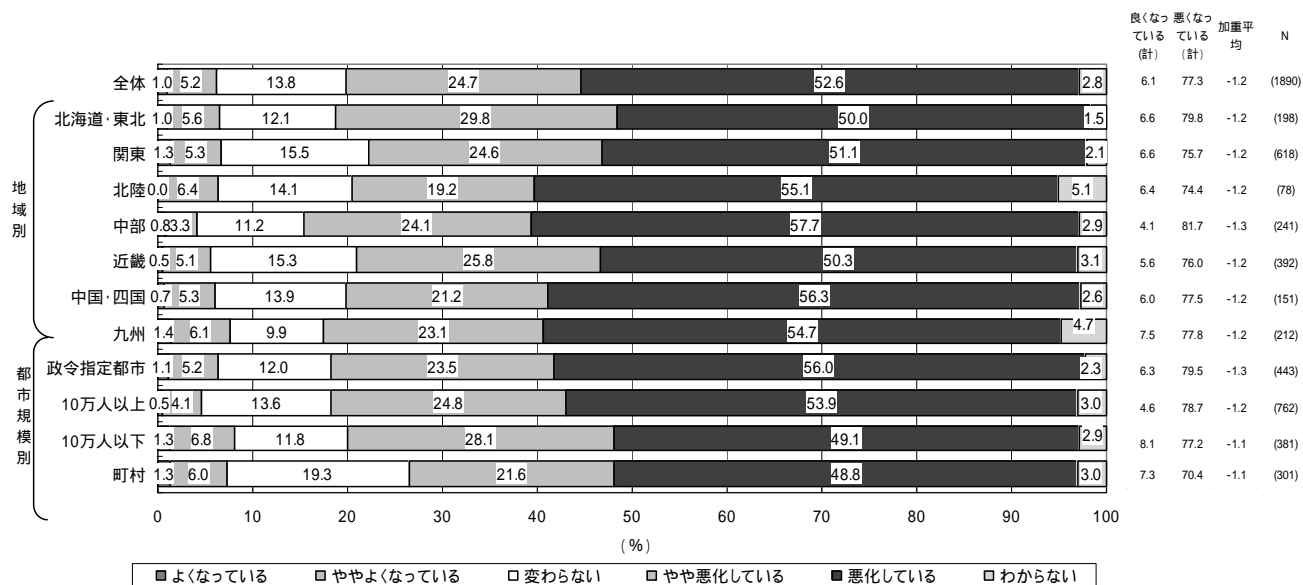


注)この項の加重平均は、「よくなっている」に2点、「ややよくなっている」に1点、「変わらない」に0点、「やや悪化している」に-1点、「悪化している」に-2点を与えて算出した。

地域別では、悪化していると実感する人の比率が中部でやや高い(82%)。

都市規模別では、良くなっていると実感する人の比率が 10 万人以下の都市でやや高い(8%)。一方で、悪くなっていると実感する人の比率は、政令指定都市でやや高く(80%)、人口規模が小さくなるほど低くなる。

図表 1-7 地球レベルでの環境の実感(地域別、都市規模別)



注)この項の加重平均は、「よくなっている」に 2 点、「ややよくなっている」に 1 点、「変わらない」に 0 点、「やや悪化している」に - 1 点、「悪化している」に - 2 点を与えて算出した。